

歴史まち歩き

大ヒット商品「有松絞り」を生み出した間宿

4

東海道 有松

コース【名鉄有松駅▶名鉄有松駅】

有松のまちは、慶長13年(1608年)阿久比庄(現在愛知県知多郡阿久比町)から移住した竹田庄九郎はじめ8名により開かれました。耕地も少なく、茶屋集落としての営みにも限界があったため、尾張藩の奨励によって副業として絞り染めを工夫しました。東海道を行く旅人を対象とした店頭販売が盛んになり、江戸時代を通じて藩の特産品として、東海道の名物となり大繁盛しました。特色ある町並みは今も多く残り、絞りの文化を今日に伝えています。

① 天満社(てんまんしゃ)

高木門と呼ばれる山門は、文化11年(1814年)建立といわれ、江戸中期のものと考えられる面影を残しています。山門の奥に本堂がありますが、浄土宗鎮西派の寺院で、元は栄生村にあったそうで、阿弥陀如来四十八願所の17番札所になっています。

② 祇園寺(ぎおんじ)

曹洞宗、文禄年間(1592年から1595年)に創建されました。当初は円道寺といい、鳴海にありましたが宝永3年(1706年)に猿堂寺と改称、宝暦5年(1755年)現在地へ移動し祇園寺と改めました。境内に33観音石仏や奈良薬師寺の仏足石を模したのがあり、その横には文政11年(1828年)の豪潮の歌碑が建っています。

③ 小塚邸(こづかてい)

主屋の一階は格子窓、二階は塗籠壁で切妻造棧瓦葺で正面に土庇がつき、隣家との境に卯建があります。塗籠造のうち最も古いものの一つです。明治期まで絞問屋を営んでいました。(平成4年市指定文化財)



④ 岡邸(おかてい)

江戸時代末期の建築で、主屋は木造2階建、切妻造棧瓦葺で正面に土庇がつき、2階は虫籠窓。特に台所の釜場の壁が柱を塗りこめて波型に仕立てているのは現存唯一の意匠です。絞商の町屋の典型の中でも古いものの一つで、今も幕末期当時の間取りをほぼそのまま残しています。屋根には厄除けの装飾を目的とした水の字の鬼瓦と屋根の下につけられた飾り板である懸魚を見ることができます。

⑦ 竹田庄九郎碑(たけだしょうくろうひ)

慶長13年(1608年)尾張藩の奨励で、知多の英比庄から庄九郎始め8名がこの地に新しく村を開拓し、農家の副業として九州の豊後絞から、絞りの技法(九九利染)を考案しました(有松絞の由来)。この功績を称え、昭和8年に有松絞商工同業組合により「有松絞開祖竹田庄九郎之碑」が建立されました。隣には、絞中興の祖鈴木金蔵翁の紀功之碑を移設しました。

⑤ 竹田邸(たけだてい)

江戸期と思われる塗籠造の主屋を中心に、西側には接客用の玄関、東側には土蔵群があり、書院・茶席ともに建築的に大変優れており、明治から大正期にかけて整備されていったようです。(平成7年市指定文化財)

⑧ 服部邸(はっとりてい)

建造年代は不詳(江戸末期から明治初年)。主屋は木造2階建の塗籠造で、たちの低い2階は虫籠窓になっており、卯建があがっています。倉庫群や荷造りのための作業場が設けられており、絞問屋の面影を最もよくとどめています。(昭和39年県指定文化財)

⑥ 有松・鳴海絞会館(ありまつ・なるみしぼりかいかん)

絞りの歴史資料や技術が実物を使い、わかりやすく展示されています。伝統工芸士による絞実演も必見です。研修室では希望により絞り体験教室も開かれ、気軽に絞りの世界を満喫できます。一階展示即売場は有松絞りのすべてを一堂に見ることができます。

⑨ 有松山車会館(ありまつだしかいかん)

有松には東町の「布袋車」中町の「唐子車」西町の「神功皇后車」3台の山車(昭和41年市指定文化財)があります。いずれも精巧なカラクリ人形を乗せた豪華な山車で、10月の祭礼には町内を引き廻され、幻想的な姿を競い合います。館内では3台のうち1台を交互に展示しています。